

施工計画書作成要領（案）

平成19年4月

宮 城 県

1. はじめに

土木工事は、屋外作業での一品生産であるため、自然的・人為的・社会的条件により工法・工期・施工性などが大きく左右されるものであり、これらの制約条件を十分に調査把握し、「自らの都合のみに立脚して所期の品質を確保しつつ、的確にかつ最も経済的に施工」するためにいわゆる「施工計画書」を作成し、実行予算を積算しているのが実状と思われま

す。このことから、施工計画書作成に当り、共通仕様書で規定している必要項目について各請負事業者が自分の施工に合わせ独自の施工計画がなされることが基本と考えられますが、その内容について一般的事項を施工計画書作成要領（案）に示すものです。

この施工計画書作成要領（案）は、宮城県土木部で施工する土木工事にかかわる施工請負者が提出する「施工計画書」の標準的指針であり、工事実施に必要な項目を十分に網羅した施工計画書を作成し、併せて前年度の経験を踏まえつつ、改善すべき点については漏れなく記述し、より完成度の高いものを目指していただきたい。

2. 適用範囲

この施工計画書作成要領（案）は、宮城県土木部制定共通仕様書（土木工事編Ⅰ）の第1編共通編1-1-4に規定する「施工計画書」に適用する。

3. 提出時期

施工請負者は、「施工計画書」を第1回打合せ後速やかに監督職員に提出するものとする。

なお、「施工計画書」の内容に変更が生じ、その内容が重要な場合には、その都度変更計画書を提出する。

4. 総合評価落札方式による請負工事の場合

総合評価落札方式により工事を落札し、「施工計画等」「技術提案等」において実施が前提となっている提案項目については、「5. 施工計画書の構成」各項目の該当箇所にその内容を記載し、総合評価での提案であることを明示すること。また、提案項目の実施確認表を施工計画書に追加すること（6. 施工計画の作成要領14参照）。

5. 施工計画書の構成

施工計画書の構成は以下を基本とする。

- 1 . 工事概要
- 2 . 計画工程表
- 3 . 現場組織表
- 4 . 安全管理
- 5 . 指定機械
- 6 . 主要資材
- 7 . 施工方法（主要船舶及び機械、仮設備計画、工事用地等を含む）
- 8 . 施工管理計画
- 9 . 緊急時の体制及び対応
- 10 . 交通管理
- 11 . 環境対策
- 12 . 現場作業環境の整備
- 13 . 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法
- 14 . 総合評価提案事項確認表（総合評価落札方式による請負工事の場合）
- 15 . その他

6. 施工計画書の作成要領

1. 工事概要

1) - 1 . 工事概要

- ・ 工事概要として，(1)工事名，(2)工事場所，(3)請負金額，(4)工期，(5)発注者，(6)請負者，(9)施工内容等について記載する。
- ・ 施工内容については，主体工事は何かを明記し，簡潔明瞭に記載する。

1) - 2 . 位置図及び工事概要図

- ・ 施工箇所を示す位置図及び工事概要図を添付する。
- ・ B Mの位置高さ，現場事務所の位置

< 記載例 >

1 - 1 . 工事概要

- 1) 工 事 名：
- 2) 工事場所：
- 3) 請負金額：
- 4) 工 期：
- 5) 発 注 者：
- 6) 請 負 者：
- 7) 現場代理人：
- 8) 監理技術者： (生年月日 年 月 日)
(主任技術者) (資格番号) 資格種類 ()
経験年数が資格の場合はその年数を記入
- 9) 施工内容：

本 工 事

施工延長 L = m (No. ~ NO.)

土 工 掘 削 V = m³

盛 土 V = m³

法 覆 工 張 芝 A = m²

筋 芝 A = m²

護 岸 工 ブロック積工 A = m²

基礎工 A = m

帯 工 基

附帯工事

管 渠 工 基

用水路工 L = m

下請の場合
その範囲の明示

- 10) 下請けの有無：下請業者名及び下請金額
施工体系図を作成している場合は省略してよい。

- 11) 作業所名称：住所
電話
下請業者の現場責任者名

- 12) 摘 要：

2. 実施工程表

- 1) 工事の実施工程表は、各工種毎に工期設定し、土曜閉庁日等含めた不稼動日の設定、全体工程とのバランス等を考慮し作成する。
- 2) 気象、地質、地下水等によって施工に影響の大きい工種については、過去のデータ等を十分調査し、工程計画に反映させること。
- 3) 工程表の作図方式は原則として任意とするが、工種数・工事量等を考慮し適切な手法を選択すること。

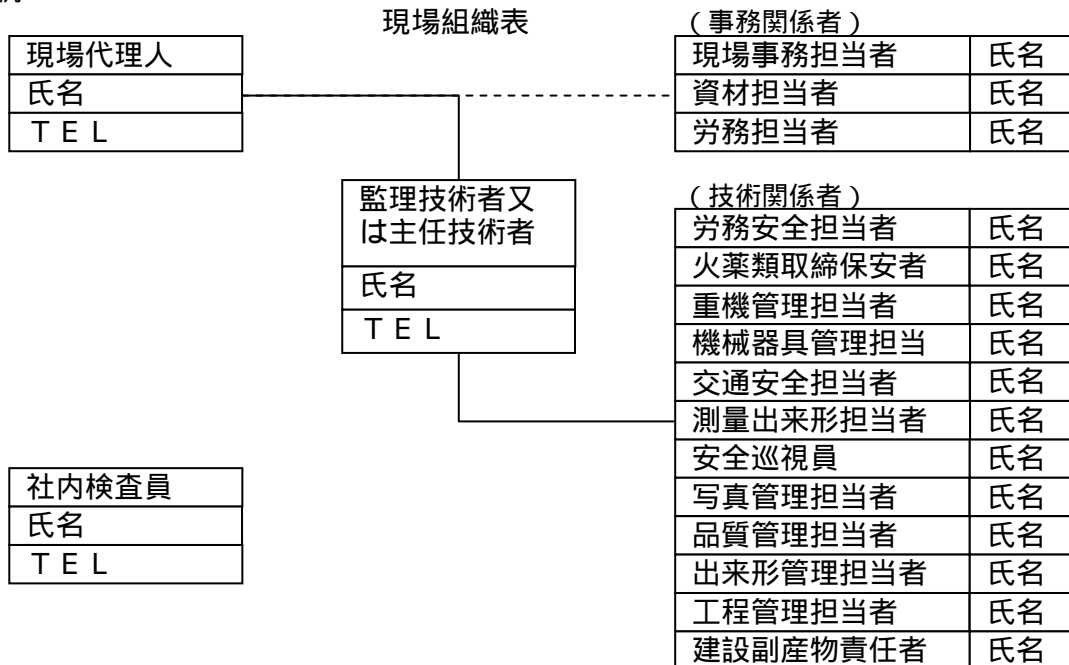
< 記載例 >

工 事 種 別			数 量	所 日 要 数	6月	
工 種	種 別	細 別			15	30
準備工			1式	14	バーチャート方式 ネットワーク方式 etc...	
掘 削	掘 削	砂質土	m3	10		
	床 掘	"	m3	8		
築 堤	埋 戻	機 械	m3	8		

3. 現場組織表

- 1) 現場における施工管理に必要な組織を記載する。
- 2) 担当する職務の明記、現場における担当責任者を記入する。
- 3) 河川工事等では、観測、連絡態勢についても必要があれば記載する。
- 4) 施工の一部を下請負させる場合は施工体系図を作成する。ただし、建設業法で定められた施工体制台帳の提出を義務付けられた工事は作成済みの施工体系図添付で足りるものとする。

< 記載例 >



注1) 工事一件の請負金額が2,500万円(建築一式工事は5,000万円)以上の工事は、主任(監理)技術者の現場専任が求められていますので、主任(監理)技術者の主たる業務である安全管理、品質管理、工程管理の担当者は主任(監理)技術者として下さい。

注2) 表中「事務関係者」は元請業者の担当者を記入してください。また、担当者が社内従業員で現場事務所配置でない場合は例のような破線表示として下さい。

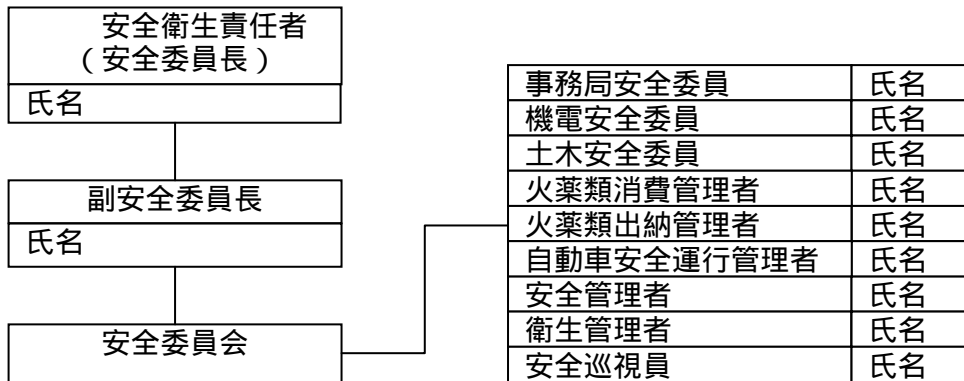
4. 安全管理

- 1) 安全管理組織，計画，活動を明確化し、それについて記述すること。
- 2) 工事施工にあたり無事故・無災害の目標達成のため，基本方針を確立し，安全管理組織表及び作業別有資格者（選任すべき主任者の確保）一覧を記載する。
- 3) 各月の工程に合わせた重点対策と安全訓練の実施項目を記述する。

< 記載例 >

1. 安全推進目標
2. 目標達成のための基本方針（工程に合わせた実際の計画を記載のこと）
 - (1) 現場の安全衛生組織の確立
 - (2) 計画段階での安全の追求
 - (3) 安全作業指示の徹底
 - (4) 安全活動の実施方法
 - (5) 安全施設計画について図示等で明示すること
 - (6) 「作業員の注意に頼らない安全管理」が大原則であることを念頭に計画を練ること
3. 安全（衛生）管理組織

【安全管理組織図】



【作業区分別有資格者一覧】

資格名	職名	氏名	交付番号	取得年月日	作業区分
地山の掘削作業	作業主任者		No.		掘削工
型わく支保工作業	作業主任者		No.		
玉掛作業			No.		
玉掛作業			No.		

資格証明書等の写しは巻末に添付すること。

【安全衛生管理計画書】

		工事工程別 安全衛生管理計画書					
工事工程表	工種名	平成	年	月	平成	年	月
	主要工事						
災害防止計画	重点対策						
	実施項目						
	安全行事						
延月数							

5. 指定機械

- 1) 工事に使用する機械で、設計図書で指定されている機械（騒音振動、排ガス規制、標準操作等）について記述すること。
- 2) 工種毎に機械を区分し、能力等から適合規格を選定する。

< 記載例 >

機 械 名	規 格	台 数	認 定 又 は 指 定 番 号	使 用 工 種	備 考
バックホウ				掘削工	
ブルドーザ				路体盛土	

6. 主要資材

- 1) 工事に適合し、種別・数量に不足がないかを検討し、使用する資材の一覧を表示する。必要に応じて製造業者等を記入のこと。
- 2) 同一品名で規格の異なる生コン等については摘要欄に使用箇所等を表示する。

< 記載例 >

品 名	規 格	単 位	予 定 数 量	製 造 業 者	品 質 証 明	搬入時期			摘 要
						月	月	月	
鉄筋	SD345 D13				ミルシート				
生コンクリート	18-8-40-60%				試験成績表				

7. 施工方法

- 1) 工事を施工するに当たり、その施工方法及び施工上の留意事項等具体的に記入すること。
なお、一般的な施工手順ではなく現場条件に即したものとなるように注意すること。
- 2) 施工方法の説明には、極力略図を利用すること。

施工方法記載にあたっての留意事項

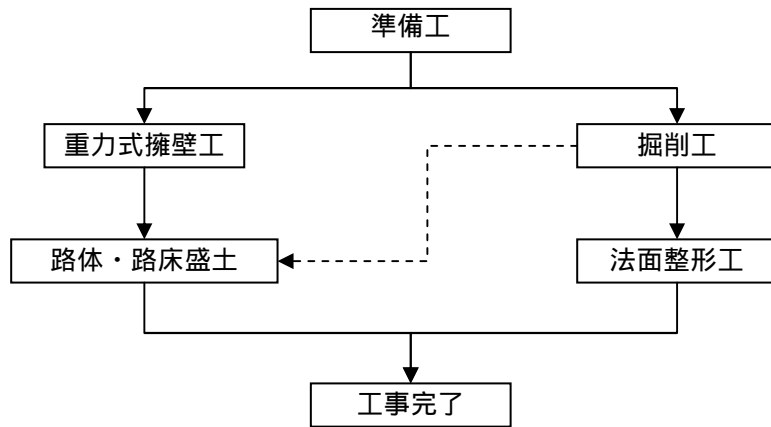
- 1) 「主要な工種」毎の作業フロー
該当工種における作業フローを記載し、各作業段階における以下の事項について記述する。
- 2) 施工実施上の留意事項及び施工方法
工事箇所の作業環境（周辺の土地利用状況、自然環境、近接状況等）
主要な工種の施工実施時期（降雨時期、出水・湧水時期等）
工事施工上の制約条件（施工時期、作業時間、交通規制、自然保護）
関係機関との調整事項
また、準備として工事に関する基準点、地下埋設物、地上障害物に関する防護方法について記述する。
- 3) 使用機械
該当工種における使用予定機械を記載する。
- 4) 仮設備計画
工事全体に共通する、仮設備の構造、配置計画等について、位置図・概略図等を用いて具体的に記載する。また、安全を確認する方法として、応力計算等も可能な限り記載する。
その他、間接的設備として仮設建物、材料・機械等の仮置き場、プラント等の機械設備、運搬路、仮排水、安全管理に関する仮設備等について記載する。

また、記載対象は次のような場合を基準とする。

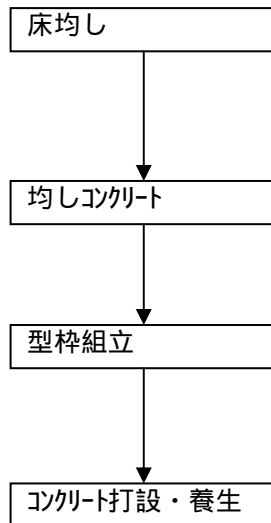
- 1) 「主要な工種」
- 2) 共通仕様書の中で「通常の方法でより難しい場合は、あらかじめ施工計画書にその理由、施工方法等を記載しなければならない。」と規定されているもの。
- 3) 設計図書で指定された工法
- 4) 共通仕様書に記載されていない特殊工法
- 5) 施工条件明示項目で、その対応が必要とされている事項
- 6) 特殊な立地条件での施工や、関係機関及び第三者対応が必要とされている施工等
- 7) その他、共通仕様書において、監督職員の「承諾」を得て施工するもののうち事前に記載できるもの及び施工計画書に記載することとなっている事項について記載する。

< 記載例 >

工事全体フロー



重力式擁壁作業フロー



床付け付近の掘削は、過掘りがないように人力併用で行い、高さはレベルにてチェックします。湧水等により水替えが必要な場合は、釜場を設置し水中ポンプにて水替えを行います。

均しコンクリート型枠は、所定の厚さ、幅が確保できるように組み立てた後、ホッパー(0.5m³)にて生コンクリートを打設します。

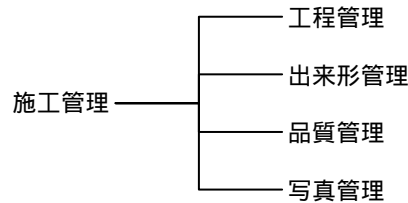
合板(t=12mm)を使用します。目違いのないように組立て所定の形状、寸法を確保できるように組み立てます。

コンクリートポンプ車にて打設を行います。コンクリートは分離しないように落下高さに気をつけて水平打ちを行います。浮水は骨材とペーストとの分離に気を配り丁寧に排除します。コンクリートの打設中は、棒状バイブレーターを使用し、鉄筋、型枠の隅々まで密実に充填させます。仕上げは、コンクリート天端に達したとき、荒仕上げによって整形し、金ごてにて仕上げます。コンクリート養生は、保温シートにて行います。

8. 施工管理計画

宮城県土木部共通仕様書（土木工事編）に示す「土木工事施工管理基準及び規格値」「品質管理基準」「写真管理基準」等に基づき、施工管理方法を記述する。ただし、条件の厳しい社内規格値を定めているもの、共通仕様書に定めのないもの、施工規模・施工条件（工事目的物の重要性、軟弱地盤等の特別な条件、施工の困難性等）等により別に基準を定める場合はその内容を記す。

定められた工期、所要の品質、寸法の確保等を目的として下記の構成をもとに適切な管理を行う。



1) 工程管理

実施工程表により管理する。異なる方式で管理する場合はその方式で工程管理表を作成する。

2) 出来形管理

その工事で行う出来形管理の「測定項目」についてのみ記載する。なお、該当工種がないものについては、あらかじめ監督職員と協議して定める。

< 記載例 >

種別	細 別	管理項目	測定基準・箇所	社内規格値	管理方法	摘要
土工	路体盛土工	基準高・法長・幅	20mに1ヶ所 No.20 No.21 No.22 No.23 合計4ヶ所		出来形管理図表 出来形展開図	
	法面整形工	厚さ			出来形管理図表	
カルバート工	砕石基礎工	幅・厚さ・延長	両端・施工継手及び図面の寸法表示箇所		出来形管理図表	
	均しコンクリート	幅・厚さ・延長			出来形管理図表	
	躯体コンクリート	基準高・厚さ・幅・高さ・延長			出来形管理図表	

3) 品質管理

その工事で行う品質管理の「試験項目」（試験）について記載する。

< 記載例 >

種別	種 別	試験項目	施工規模	試験頻度	試験回数	管理方法	摘要
路体盛土工	盛土材料	土の締固め試験	5000m3	当初及び土質の変化時	1回	試験成績表	
	施工	現場密度の測定		1000m3 / 回	5回	試験成績表・成果一覧表	

4) 写真管理

その工事で行う写真管理について記載する。

< 記載例 >

工種	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	提出頻度	摘要
路体盛土工	巻出し厚	巻出し時	200mに1箇所 No.22	各代表箇所1枚 No.22	
	締固め状況	締固め時	1箇所 No.22		
	法長・幅	施工後	200mに1箇所 No.22		
法面整形工（盛土部）	仕上げ状況・厚さ	仕上げ時	200mに1箇所 No.22		

5) 段階確認

設計図書で定められた段階確認項目についての計画を記載する。

< 記載例 >

種 別	細 別	確認時期項目	施工予定時期 月 日	記 事

6) 品質証明

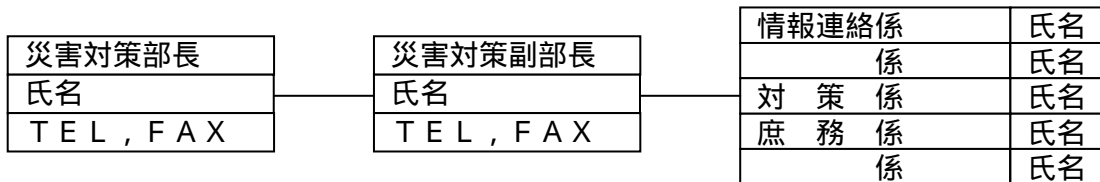
その工事の中で行う社内検査項目、検査方法、検査段階について記載する。

9. 緊急時の体制及び対応

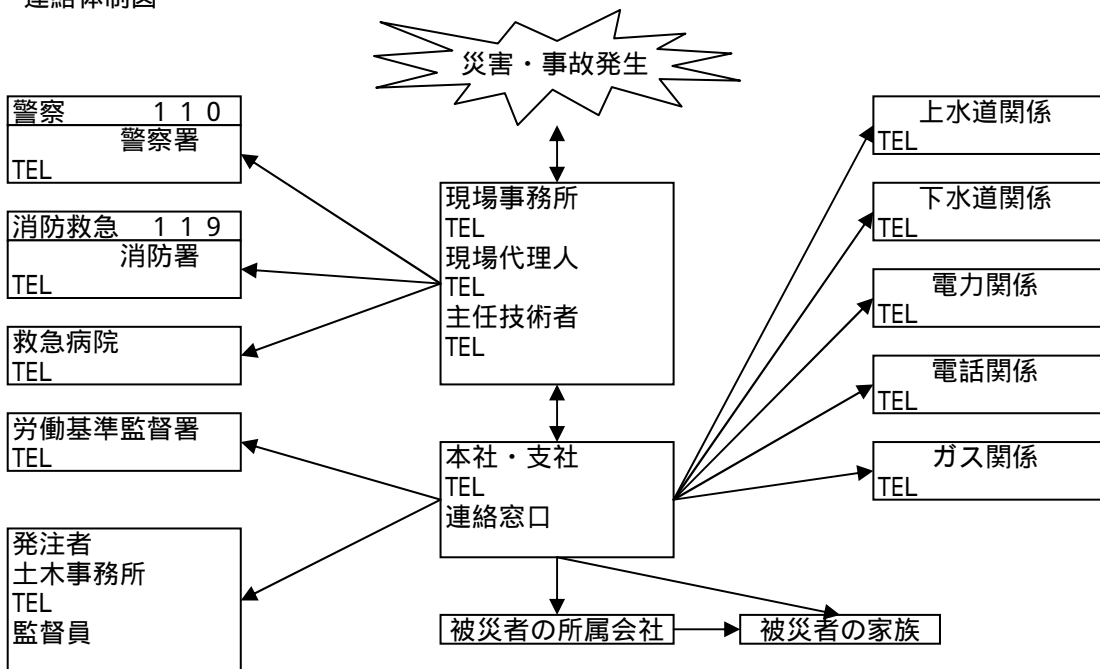
大雨、強風等の異常気象時又は地震発生時の、災害防災及び災害が発生した場合や事故・労働災害発生に対する、体制及び連絡系統を記載する。

< 記載例 >

災害対策組織



連絡体制図



10. 交通管理

工事現場での一般通行者の交通事故の防止及び沿道住民への迷惑を防止し、あわせて円滑な道路交通と現場作業員の安全を確保するための管理対策を記載する。
共通仕様書1-1-33（交通安全管理）による

< 記載例 >

- 1) 具体的な保安施設配置計画
- 2) 積載超過運搬防止対策
- 3) 通行止め等規制を行う場合の迂回路案内図
- 4) 交通誘導員の配置、安全施設等の配置図
- 5) 主要材料（工事間利用土砂を含む）、機械等の搬入・搬出経路及び出入口対策

11. 環境対策

工事現場地域の生活環境の保全と、円滑な工事施工を計ることを目的として、環境保全対策関係法令に準拠して、次のような項目の対策計画を記載する。

なお、ISO対象工事の場合は、より具体的に記載すること。

- 1) 騒音、振動対策
- 2) 水質汚濁
- 3) ゴミ、ほこりの処理
- 4) 事業損失防止対策（家屋調査、地下水観測等）
- 5) 産業廃棄物の対応
- 6) その他

12. 現場作業環境の整備

現場作業環境の整備に関して、下記の事項についての取り組みを記載する。

- 1) 仮設関係
- 2) 安全関係
- 3) 営繕関係
- 4) イメージアップ対策の内容（イメージアップ経費を計上された場合）
- 5) その他

13. 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正処理方法

土木工事共通特記仕様書1-1-4（建設副産物）によって、次のような項目について記載する。

- 1) 再生資源利用計画書
- 2) 再生資源利用促進計画書
- 3) 指定副産物搬出計画（マニフェスト、土砂伝票等）

留意事項

請負金額が100万円以上の工事は「建設副産物情報交換システム」への登録が義務付けられているので、1)及び2)についてはシステムからの出力帳票の添付で足るものとする。

14. 総合評価提案事項確認表（総合評価落札方式による請負工事の場合）

総合評価落札方式で落札した工事の請負業者は、入札時配置予定技術者が提案した「施工計画等」「技術提案等」の実施項目について、実施の有無を確認できるよう施工計画書の構成項目別に一覧表を作成すること。

< 記載例 >

構成項目名	実施項目内容	実施の有無	掲載ページ
4 安全対策	工事車両出入りに常に誘導員を 人つける		P 5
6 主要資材	設計では現場製作の を二次製品で対応する		P 1 0
7 施工方法	掘削工 バックホウを 2 台配置して期間を短縮する		P 1 5
8 施工管理計画			

15. その他

その他重要な事項について、必要により記載する。

< 記載例 >

- 1) 官公庁への手続き（警察、市町村）
- 2) 地元への周知
- 3) 休日